

1 【経営分析】文化振興施策

番号	X会議	会議で指摘された事項	現在の取組状況
①	第2回	Aレベルの課題解決に向けた総点検を行うべき。 ・禁止事項掲示が多い ・美観を損ねる表示やチラシ類が多い など	各館において点検を実施し、以下のような改善を行った。 ・写真撮影可能な部分だけ表示し、禁止表示を撤去 ・利用度に応じてチラシの配布位置を最小限に変更 など
②	第2回	X方針における「改革」「課題」のレベル感について、幹部においては、本質課題に注力すべき。	— (経営分析を継続中)
③	第2回 第3回	・市内のミュージアム系施設全体について棚卸しすべき。 ・大阪の独法や東京の財団にヒアリングへ行くべき。	・上山顧問による環境ミュージアム等環境系施設の視察を実施した(11/13)。 ・地方独立行政法人大阪市博物館機構でヒアリングを実施した(11/14)。東京の財団については未実施。

2 【経営分析】公共投資

番号	X会議	会議で指摘された事項	現在の取組状況
①	第2回	投資的経費のあり方については、施設保有や利活用の考え方(廃止や用途転換、民間売却など、施設総量抑制など)や、都市の競争力強化のための新規投資の必要性等を踏まえて検討を行うべき。	「市債残高の着実減少トレンドの継続」「新たな財源確保」などを踏まえつつ、令和7年度以降の予算編成において、新たな「投資的経費の適正水準」を設定する。年内に結論を得る。

これまでのX会議で指摘された事項と取組状況について

3 公共施設マネジメント

番号	X会議	会議で指摘された事項	現在の取組状況
①	第3回	例えば、「耐用年数が10年以内の施設はそのまま建て替えることはしない」ということを原則とした上で、施設のあり方について年内に方針を出させるなど、施設所管部局に真剣に検討させ、議論のキャッチボールを進めるべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・11/8に市政変革実行本部長(市長)名で各局長に通知、利用者目線での公共施設の点検を指示 ・上記通知に基づき、施設所管部局による各施設の点検を実施 ①今年度、経営分析を実施している事業にかかる施設 [時期] 11月着手(年内に点検結果を市政変革推進室に報告) [対象] 市営住宅、学校、スポーツ施設、文化施設など [規模] 936施設・約390万㎡(全体の83%)
②	第3回	施設所管部局が主体的に施設毎の最適化の検討を行っていく際には、単にフォーマットを渡すだけでなく、市政変革推進室がサポートを行いながら進めるべき。	②その他の施設 [時期] ①の進捗に応じて順次着手 [対象] 市民センター、観光施設、庁舎など [規模] 1,371施設・約80万㎡(全体の17%) ・点検にあたり、市政変革推進室が各施設の関係データを準備し、11/21から施設所管部局に実施方法を説明。
③	第3回	公園も今回の報告と同じようなやり方で検討を進めるべき。	— (公園事業に関する経営分析を継続中)

これまでのX会議で指摘された事項と取組状況について

4 持続可能な公民連携のあり方

番号	X会議	会議で指摘された事項	現在の取組状況
①	第3回	外郭団体を「管理する団体」から、「活用する団体」に変えていく。コンセプトを変えるのであれば、外郭団体の名称を変えた方が良い。	<ul style="list-style-type: none">・団体トップとのヒアリングを実施(12/11、12/12)・行政サービスの持続可能性を踏まえ、今後の団体の方向性を明示(12月～1月)・団体の方向性と合わせて、新たな名称を決定(1月)
②	第3回	団体のガバナンスについて公民連携のパートナーとして、強化すべき。	<ul style="list-style-type: none">・ガバナンスチェックリストを作成し、12月から団体の自己点検を実施。・団体の役割を再定義の上、12月からトップマネジメントの考え方を整理。

X会議での指摘事項一覧(いずれの指摘事項も検討結果(取り組みの有無・内容)を明らかにする)

No.	回	議題	指摘事項の内容	取組状況
1	第1回(7月)	視察の振り返り (桃園公園)	こどもまんなか宣言をしているのであれば、テニスコートや野球場の整備よりも、子どもの意見であるトイレ・水飲み場・ベンチの整備を優先すべき。	経営分析「公園事業」で検討中(令和6年度末まで)
2	第1回(7月)	視察の振り返り (元気のもり)	工作コーナー終了後の掲示は「15時で終わりました」ではなく、「明日10時からまた来てね」とすべき。	実施済み
3	第1回(7月)	「ユーザー目線を踏まえた市政変革の進め方(いのちのたび博物館)」	出てきた課題については、できること・できたことだけではなく、全て見える化すること。	所管局の状況を事務局で把握できていない
4	第1回(7月)	経営分析の経過報告	Cレベルの課題については、都市計画的な目線も含め、土地とお金を管理する専門の局を新しく作るなど、集中的に取り組む体制を作るべき。	所管局の状況を事務局で把握できていない
5	第1回(7月)	経営分析の経過報告(公園)	現在の1,700公園は、拡大しすぎているのではないか。データを含め見直す必要がある。	経営分析「公園事業」で検討中(令和6年度末まで)
6	第1回(7月)	経営分析の経過報告(公園)	公園の管理は、10年後も公園愛護会を前提として本当に大丈夫なのか、真剣に考える必要がある。	経営分析「公園事業」で検討中(令和6年度末まで)
7	第1回(7月)	経営分析の経過報告(公園)	直営による公園管理は根本的に時代遅れ。外郭団体やNPO等が全体をみてくれるような体制づくりや、区役所への分権化を考えるべき。	経営分析「公園事業」で検討中(令和6年度末まで)
8	第1回(7月)	経営分析の経過報告(子育て支援)	民営ですごくかっこいい子育て施設を運営しているNPOや、ベンチャー企業の力を借りるべき。	経営分析「子育て支援」で検討中(令和6年度末まで)
9	第2回(8月)	冒頭あいさつ	文化施設については、現状維持ではなく資源の配分をどう考えるのが良いか、本当に楽しませるラストワンマイルの持っていき方をどうするのか、運営主体をどうしていくのか考える必要がある。	経営分析「文化振興施策」で検討中(令和6年度末まで)
10	第2回(8月)	経営分析	Bは中期でCは長期というのはおかしい。ぼっさり決めれば3年で出来てしまうCはいっぱいある。これでは難しい課題はすべて5年先に先延ばしになってしまう。事務局のガイダンスが間違っている。	A、B、Cの定義も改めて事務局で整理して周知した。
11	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	やっちはいけないことを全部並べている文化施設は全国的にもない。20年前で時間が止まっている。他都市の施設等を見に行つて考えるべき。	所管局の状況を事務局で把握できていない
12	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	美術館のメインのところにはアマチュアの方の展示会の案内があるのは珍しい。ビジュアルやメッセージの出し方として如何か。美観の問題として、監視員が毛布を置いたままお手洗いにいくとか、注意してほしい。	所管局の状況を事務局で把握できていない
13	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	市の施設はどこもチラシがめっちゃくちゃ多い。美観と利便性を考えて総点検する必要がある。	漫画ミュージアムで実施した。その他の施設は所管局の状況を事務局で把握できていない
14	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	政令市クラスでミュージアムを全部直営でしている都市は多分ない。事務職員の数がすごく多く、合理化・集約化・民間委託等の選択肢を検討すべき。	経営分析「文化振興施策」で検討中(令和6年度末まで)
15	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	複数局が様々なミュージアムを所管している。縦割りをやめ、市のミュージアム全体のあり方を考えるべき。	経営分析で検討中(文化・環境)(令和6年度末まで)
16	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	ホールについては、一般市民が利用する施設は、地元サービス施設と同じようなものとして、地域住民やボランティアなど地域に返していくべき。	経営分析「文化振興施策」で検討中(令和6年度末まで)

No.	回	議題	指摘事項の内容	取組状況
17	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	文化施設がすごく多い。特にミュージアムが多い。はたしてたくさん施設がこの人口に必要なのか考えるべき。他都市と比べて多くないという資料があったが、精査する必要がある。大都市は民間ミュージアムが多いという特殊事情もある。	経営分析「文化振興施策」で検討中(令和6年度末まで)
18	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	サイエンス・環境系のミュージアムは中身が古いと意味がない。アップデートする余裕がないのであれば、廃止や用途転換すべき。	経営分析で検討中(文化・環境)(令和6年度末まで)
19	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	専門家を入れた財団や独立行政法人でスキルを磨いて運営すべき。直営原則が果たして良いのか。直営維持自体が異例なので、直営維持するならば説明責任がある。	経営分析「文化振興施策」で検討中(令和6年度末まで)
20	第2回(8月)	経営分析(文化振興施策)	直営は、条例・規則・予算(財源)などの縛りがあり、百害あって一利なし。国立も大阪市も独立行政法人化している。今風にならないといけない。	経営分析「文化振興施策」で検討中(令和6年度末まで)
21	第2回(8月)	ブラチナ市役所プロジェクト	具体的に何を变えるかにコミットして欲しい。例えば、救急隊が夏の暑い中、コンビニ利用すら認められていないのは、すぐに認められるようにしてもらいたい。	救急隊員がコンビニエンスストアを利用することにより、他の利用客や関係者に感染症等の不安を抱かせないように、利用する際の留意点を整理し、コンビニエンスストア関係者等と協議のうえ救急隊に周知した。また、救急隊のコンビニエンスストアの利用について、市民から誤解されることがないように、市ホームページやSNSで広報している。
22	第2回(8月)	ブラチナ市役所プロジェクト	電子決裁を紙で印刷して回しているといった煩雑になったものは、ぜひコミットして改善してほしい。	文書管理システムの使い勝手が悪いという意見があったことから、電子決裁率向上のため、3か年かけて文書管理システムの改修を行った。決裁の進捗状況のメールでの通知機能や添付ファイルの一括ダウンロード機能等の改修の概要を周知した。また、電子決裁推進要領(再訂版)にて紙でしか決裁できないものを列記し、それ以外は全て電子決裁を行うものとして整理した(R5.9月発出)。これらについては、改めて令和6年11月に周知を行った。
23	第2回(8月)	ブラチナ市役所プロジェクト	問題の真因はどこにあり、どこが課題なのかをもう少し検討し、取捨選択すべき。	第2回X会議終了後、各プロジェクトチームにおいて、あらためて職員アンケート結果等の再確認や課題の深堀を行い、制度所管局に提案する課題の取捨選択あるいは追加を行った。
24	第2回(8月)	経営分析「公共投資」	今ある施設を全部持ち続けるのか。廃止や用途転換、民間売却などでボリュームを下げれば、公共投資のあり方の議論自体いらなくなるのではないかと。	施設のあり方検討に向けて経営分析「公共投資」「公共施設マネジメント」で検討中
25	第2回(8月)	経営分析「公共投資」	人口獲得競争の中で、市としての競争力をつけるため、子育て系の施設など新たに何か作る施設の議論もしなくてはならない。	施設のあり方検討に向けて経営分析「公共投資」「公共施設マネジメント」で検討中
26	第2回(8月)	経営分析「公共投資」	市債の残高以前に、公債費の支払いや現金ベースで結構しんどくなるということがあるかもしれないので、その分析を加えてほしい。	経営分析「公共投資」で検討中(令和7年度当初予算案公表まで)
27	第2回(8月)	漫画ミュージアムにおける施設点検・ヒアリングの実施状況報告	アンケート数がもう少し欲しい。期間をかけてもう少しやれば出てくる。	常設のアンケートを設置した
28	第2回(8月)	漫画ミュージアムにおける施設点検・ヒアリングの実施状況報告	アンケートでは「暑い」という声が一番多かったので、すぐ対策してほしい。	対応済み
29	第2回(8月)	漫画ミュージアムにおける施設点検・ヒアリングの実施状況報告	ヒアリング実施結果として性別や年齢、居住地、来館回数等いろいろな属性を把握していると思うので、属性別にどんな意見が出たかというものを分析し、今後ターゲットをどうしていくとか、どのあたりに力を入れていくかを視野に入れた分析をしてほしい。	所管局の状況を事務局で把握できていない
30	第2回(8月)	漫画ミュージアムにおける施設点検・ヒアリングの実施状況報告	この取組みを、環境系や子育て関連の施設でも進めてほしい。	子育て関連施設及び美術館でヒアリングを実施した。その他の施設は未把握。
31	第2回(8月)	漫画ミュージアムにおける施設点検・ヒアリングの実施状況報告	「幾らだったら満足しますか」という、逆に言うと、「もっと高くても良いと思いますか」みたいな、その種の掘り下げも本当はした方がよい。安すぎると思ひすぎるという問題もある。	所管局の状況を事務局で把握できていない

No.	回	議題	指摘事項の内容	取組状況
32	第2回(8月)	講評(文化施設)	漫画ミュージアムは、都市のあるべき姿に対してどういうコミットをしているのかといった、全く別の観点から評価してほしい。	所管局の状況を事務局で把握できていない
33	第2回(8月)	講評(文化施設)	館の運営主体だけでなく、利用者がお互い不快にならないようにするにはどのような施設運営をするべきなのか考える必要がある。	所管局の状況を事務局で把握できていない
34	第2回(8月)	講評(文化施設)	すぐやろうと思えばできることがなぜ今までできていなかったのか、ちゃんと精査する必要がある。	所管局の状況を事務局で把握できていない
35	第2回(8月)	講評(文化施設)	どういった施設運営をすれば来場者の満足度が高まるか、組織体系や運営統治、インセンティブや処遇など構造的に検討する必要がある。	所管局の状況を事務局で把握できていない
36	第2回(8月)	講評(プラチナ市役所プロジェクト)	A, B, Cに分類し、優先順位をつけてなにをやるのか、所管局としっかり調整してほしい。	第2回X会議終了後、事務局において課題をA, B, Cに分類した。あわせて、プロジェクトチームにおいても課題や解決策に優先順位をつけ、制度所管局に対して、メリハリをつけた提案を行った。
37	第3回(10月)	X会議の指摘された事項と対応状況	「対応」という言葉が受け身でよくない。そもそも自ら改革するのがX会議である。フォーマットを変えたらどうか。また、具体的な指摘に関しては、具体的に「やった」「やらない」をきちんと書くこと。	「対応状況」としていた項目名は「取組状況」とし、具体的な指摘事項等に対し、具体的な内容で取組状況を報告するようフォーマットを修正した。また、あらためて過去の会議録を再確認し、指摘事項等の追加を行った。
38	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	施設所管局でどこをどうしたいという最適化の形を提案し、それを改革部門がしっかりサポートしながら方向性がずれないようにナビゲートし、どんどん個別論を出して行ってほしい。	施設所管局において点検に着手。点検にあたっては、市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートを行いながら実施。
39	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	利用者と市民全体の違いをどう捉えるのか、一生懸命一つ一つ考えないといけない。	施設所管局において点検に着手。利用者と市民全体の視点の違いを踏まえた点検を、市政変革推進室がサポートを行いながら実施。
40	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	各局長は、所管している施設について責任を持って変えていくことをX方針に書き加えるべき。	X方針の修正・追加作業を実施。
41	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	5市対等合併やいわゆる迷惑施設の設置の経緯、それぞれの区の特性を踏まえて具体化するべき。	施設所管局において点検に着手。施設の設置経緯や、区の特性等の視点を踏まえた点検を、市政変革推進室がサポートを行いながら実施。
42	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	施設の多機能化だけでなく、役割の明確化を行うことも大事。例えばスポーツ施設では稼ぐための施設と地域で日常的に使うための施設。	施設所管局において点検に着手。施設の多機能化や役割の明確化等の視点を踏まえた点検を、市政変革推進室がサポートを行いながら実施中。
43	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	他局の施設に機能を移管すれば自局の施設は廃止するという、互いに他局に期待しがちであり、誰かが調整する必要。	市政変革推進室がサポートを行いながら、施設所管局において点検を実施中。各局から提出された提案については、今後、関係部局の連携を踏まえた協議を行う。
44	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	稼ぐための施設は新たな時代にあった施設に置き換えていく必要。その際、民間の活力を生かすことを責任持ってやる部署がないと実際に動かすのは非常に難しい。	組織のあり方について令和7年4月組織編成に向け検討中
45	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	小学校区単位の市民センター・まちづくり協議会の設置が学校統廃合等で崩れてきたときに、地域をどう考えるか、そして地域の拠点施設の在り方を誰かが総合的に考える必要がある。	地域の拠点施設の在り方をどういった体制で検討するか、令和6年12月から1月までに整理する。
46	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	例えば、「耐用年数が10年以内の施設はそのまま建て替えることはしない」というサンセット原則を決めた方がよい。	施設のあり方検討に向けて、施設の老朽度や、利用者数、収支等の視点に着目し、点検を実施。
47	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	上記に該当する施設は、今回のチェックリストとは別に「年内に方針を決めて下さい」と宿題を出さないとキャッチボールにならない。古いもの、人が来ていないものはとにかくリストに載せることは年内に終わってはどうか。	今年度経営分析を実施している事業にかかる施設について先行して点検に着手。年内に点検を完了する予定。その他の施設についても、先行施設の進捗に応じて順次着手する。
48	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	公園も今回の報告と同じようなやり方で検討を進めた方がよい。	経営分析「公園事業」で検討中(令和6年度未まで)

No.	回	議題	指摘事項の内容	取組状況
49	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	美術館や卸売市場など市に1つしかないものは事業分析で検討した方がよい。図書館や公民館など、どの市にもあり市内に複数あるものが今回の進め方に向いている。	すべての施設を対象に点検を実施。美術館等については併せて経営分析を実施中。
50	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	検討は「誰が」「いつ」を明確にする必要がある。	施設所管局において点検に着手。点検にあたっては、市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートしながら実施中今年度経営分析を実施している事業については、年内に点検完了予定。
51	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	民間のノウハウの活用には、他地域の事例を権限ある人間が見に行く、民間企業にアポイントを取って営業するなど、外にでていく活動を市役所内で共有しつつ広げるべき。	各分野において、他都市事例等の視察を実施。引き続き、施設のあり方の検討に向けて、他都市事例研究とあわせて民間企業の営業などを進めていく。
52	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	スケジュールを幾つかに仕分け、先にこれをするというのを決めないと半年、1年経ってしまう。しっかりスケジュールを組んでいきたい。	今年度経営分析を実施している事業にかかる施設について先行して点検に着手。年内に点検を完了する。その他の施設についても、先行施設の進捗に応じて順次着手する。
53	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	優先して検討する施設のピックアップは市政変革推進室がやらないといけない。	今年度経営分析を実施している事業にかかる施設について先行して点検に着手。年内に点検を完了する。その他の施設についても、先行施設の進捗に応じて順次着手する。
54	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	チェックリストはバージョンを用意する必要。その際も施設所管局とよくコミュニケーションをとって市政変革推進室が引く必要がある。	施設所管局において点検に着手。点検にあたっては、市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートしながら実施。
55	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	市政変革推進室と財務部の協調によって各局に施設のチェックの手順・スケジュールが予算に直結することを浸透させていく必要がある。	施設所管局において点検に着手。点検にあたっては、市政変革推進室が各施設の予算や、将来必要となる費用などのデータを示しながら実施。
56	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	どれくらいの面積の集約が可能なのか、各局を巻き込んでの目標設定と、その目標で財政が立ちいくのかのやり取りが重要。	各施設の点検後その状況を集約し、市の財政状況と照らし合わせた上で、目標設定の有無・設定内容を検討する。
57	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	耐用年数の到来を待つことなく検討するには、施設を保有するだけで「これだけのお金がかかる」「こんな弊害がある」ということを整理すべき。	各施設における将来必要となる費用の試算結果を示しながら点検を実施。
58	第3回(10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	チェックリストでチェックし始めると、それに没入して本質を見逃しかねない。チェック後に現場を見る、現場の声を聞く、すりあわせていくという作業が非常に大事であり、後々の納得度に繋がる。	施設所管局において点検に着手。点検にあたっては、市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートしながら実施。
59	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	状況変化に合わせ、直営、民間に頼む、頼み先がなければ自ら団体を作って人を他所から呼んでくるなど、役所の仕事の仕方・組み立て方を考え直す必要がある。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「団体の役割の再定義(官団民の役割分担、団体活用の考え方など)」を行う際に検討(今年度中)
60	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体の仕事の仕方はガラッと変えないといけない。一番大事なのは専門性を持った人材。民間から取る場合も全国から専門ノウハウを持った人を探し、例えば劇場や公園などにブローを入れていく。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「団体の役割の再定義(官団民の役割分担、団体活用の考え方など)」を行う際に検討(今年度中)
61	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	都庁の場合は、子会社みたいなものを作って、役所の仕事の受け皿、外郭団体を再構築していった。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「改革の方向性の検討(外郭団体の役割・機能の明確化)」を行う際に検討(R6.1まで)
62	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体に役所のOBが行ってもいいが、その分野を経験したことのない人は問題外。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「政策実行のための団体機能強化の実施」を行う際に検討(今年度中)
63	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体のガバナンスが緩い。理事会が年2回から4回というのは企業では考えられない。また、戦略的な議題もほぼなく、役員会として機能していない。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「団体の役割の再定義(官団民の役割分担、団体活用の考え方など)」を行う際に検討(今年度中)
64	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	理事会に過半数の民間企業経験者を入れて喝を入れる。常勤だと処遇や適材が見当たらない問題があるが、非常勤であれば結構入れることができる。経営ガバナンスという視点であれば、他の分野の民間経験者でも十分機能する。理事の数を増やし、過半数が民間の人になると理事会の空気が変わってくる。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「団体の役割の再定義(官団民の役割分担、団体活用の考え方など)」を行う際に検討(今年度中)
65	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体は市役所の外の仕事を積極的に取りに行く。他都市にサービスを提供して収益を得る。株式会社については目指した方がいい。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「団体の役割の再定義(官団民の役割分担、団体活用の考え方など)」を行う際に検討(今年度中)

No.	回	議題	指摘事項の内容	取組状況
66	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体のうち、劇場や公園などについては、北九州市のブランドや信用、大きな規模の仕事ができるなどをもっとアピールし、人材を集めるべき。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「政策実行のための団体機能強化の実施」を行う際に検討(R6.4以降)
67	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体の新設を言い出せる雰囲気ではないのは分かるが、スクラップや統合をしながら、必要なものは作ればよい。一方、役割を終えたもの、もう要らないものは潰してしまう。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「団体の役割の再定義(官団民の役割分担、団体活用の考え方など)」を行う際に検討(今年度中)
68	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体側から「こういうことができる。こういうことをしたい」と市にほとんど言ってこない状況。「市にはないこういう力・ノウハウがあるのではないか」、市役所側が団体をガイドしていかないといけない。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「政策実行のための団体機能強化の実施」を行う際に検討(R6.4以降)
69	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	民間の人材をトップに据えるルールが明確化していない。民間人材や理事長の報酬を業績に応じて変動させるなど、ルールをもう1回作り直さないと機動的な運営ができない。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「団体の役割の再定義(官団民の役割分担、団体活用の考え方など)」を行う際に検討(今年度中)
70	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	期待値が高い外郭団体等に市の幹部候補生のような若い管理職を送り込んで、実際に団体の中に入って、市役所の目で団体の強みを整理することが必要。また、その市の職員に団体が稼ぐ・役割を果たす上でこうあるべきと中から改革する経験をその積んでもらう。逆に団体プロパーの専門職の人たちを部長にし、市役所に1・2年出向して議会等について学んでまた団体に戻るなど。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「政策実行のための団体機能強化の実施」を行う際に検討(R6.4以降)
71	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	外郭団体の評価表について、令和3年までは評価結果の開示があったが、令和4年と5年は計画のみ開示となっている。	HP更新済み(11月28日)
72	第3回(10月)	経営分析「公民連携体制(外郭団体)」	ガバナンスについて外郭団体の裁量権が中々ない。裁量権を持たせることで随分変わる要素がある。	X会議資料P16今後のスケジュール(予定)に記載の「改革の方向性の検討(外郭団体の役割・機能の明確化)」を行う際に検討(R6.1)